

開会挨拶

ぴあ総合研究所（株） 代表取締役社長 吉澤保幸

ぴあ総研は、2002年の創立以来、ぴあグループの事業ドメインであるエンタテインメント市場の動向および市場規模の調査に注力してまいりました。今般のコロナ禍において、集まるな、声を出すな、といったさまざまな行動・活動制限の中で甚大な影響を受けました、集客エンタメ産業に関して、いわば唯一とも言えますシンクタンクとして、その影響分析等の発信をしております。

昨年、ぴあ総研は、集客エンタメ産業が新型コロナウイルスによって、市場の約80パーセント、約1兆円弱を損失したことを発表いたしました。約10倍の経済波及効果があるため、10兆円規模の経済損失になったと調査分析を発信したことにより、図らずもコロナ禍でさまざまな注目を浴びる存在となりました。この2年間のコロナ禍により、人や人、人と地域のつながりといったものが希薄化し、社会問題がさまざまに生じております。その一方で、持続可能な発展というSDGsの重要性が強まっている中で、もう一度、人々の心の豊かさを求める声が一段と高まっている状況かと思っております。

コロナ禍で自粛を要請され、あるいは不要不急だというレッテルを貼られたこの集客エンタメ産業の社会的価値、精神的な豊かさ、そして感動、共感の連鎖といったものが持つ本質的な価値をもう一度実感していくフェーズに入ってきたのではないかと感じております。人々のにぎわいや、音楽あるいはスポーツを楽しむといったフェーズによりやく戻ってきた中で、ぴあ総研は、2022年7月に50周年を迎えるぴあグループの一員として、今こそ集



客エンタメ産業の本来の価値をあらためて見つめ直し、その波及による地域経済の再生、あるいは日本再生の道筋をつけていきたいと考え、今回のテーマを選び出し、シンポジウムを企画いたしました。集客エンタメ産業による日本の未来への展望のヒントをぜひつかみ取っていただければ幸いです。